

# 日常経験をリソースとした振り返り支援機能の設計と開発 – 予定表の記述をそのままポートフォリオに – Design and Development of a Reflection Support Function Using Everyday Experience as a Resource - Utilization of Schedule Descriptions in Portfolios-

平岡 斉士\*1, 小村 道昭\*2  
 Naoshi HIRAOKA \*1, Michiaki OMURA\*2

\*1 放送大学

\*1 Open University of Japan

\*2 株式会社アルベッジ

\*2Arbege Corporation

Email: hiraoka.naoshi@ouj.ac.jp

**あらまし** : b ポートフォリオは読書経験をリソースとして、自らの考え方を形成・更新することを支援するシステムである。b ポートフォリオに、読書以外の多様な経験をリソースとして学びの振り返りを支援する新機能を搭載した。この機能は、カレンダーに記入された「予定」とその結果の記述を「経験記録」として学習の素材として活用するものである。この機能によって、読書経験の振り返りを足場掛けとしてポートフォリオでの学習を経験した学習者が、生涯に渡る多様な経験を踏まえた学習をリソースとしてポートフォリオによる学習ができるように支援する。

**キーワード** : ポートフォリオ 生涯学習 多様な経験の振り返り 読書経験

## 1. はじめに

筆者らは、「読書経験をリソースとして、自らの考え方を形成・更新することを支援するポートフォリオシステム（以下、b ポートフォリオ）」を設計・開発・公開した<sup>(1)</sup>。本システムは、教育機関に所属していない人が自由に使える e ポートフォリオシステムであること、ポートフォリオによる学びのスキルがない人がまずは読書経験を振り返ることからポートフォリオでの学びの練習をしていける点を特徴とした。複数の読書経験から自身の「考え（これをコルブの経験学習モデル<sup>(2)</sup>のマイセオリーにあやかってマイビリーフと名付けた）」を深め、それを更新していくことで、自身の学習経験を横断して考察する経験とスキルを得てもらうことを期待したのである。

本システムにおいて、読書経験は学習の素材の一つであり、ポートフォリオを用いた学習の初心者にとっての足場かけと位置づけている。次のステップは、読書以外の経験からの学びの振り返りを支援することである。本発表では、多様な日常経験を学習の素材として活用できるポートフォリオシステムの機能の設計と開発について説明する。

## 2. 予定表機能の設計思想

人は日常で多様な経験をする。それらを経験した後に振り返るために記録するためには、多様な経験の中からどの経験を記録するかを選別するプロセスが必要となる。経験の中から自らの学びに繋がった経験を選別すること自体が重要な学習プロセスであるが、経験を思い出すこと自体の負担が大きいために選別が不十分になる恐れもある。そこで本研究では、多様な経験を思い出す負担を軽減するための方略として、多くの人が活用している「予定表」の機

能を用いることにした。

Google カレンダーなどに仕事や日常生活の予定を入れて活用している人は多い。しかし、これらの予定表に記録された「予定」は予定が終わったら、「過去の予定」となるだけである。本機能は「過去の予定」を読書経験と同様に学習素材として用いる。本機能のベースは、b ポートフォリオシステムに新たに搭載されたカレンダーである。そのカレンダーに Google カレンダーなどと同じように予定を記入し、その予定を遂行したら（あるいはしなかったら）、その結果や感想などを記録するのである。記録したあとは、読書経験と同じように振り返り、マイビリーフを作るための素材として活用する。

## 3. 経験を記録する経験ノート機能

### 3.1 経験ノート機能の概要

新機能は以下から構成される。

- カレンダー機能 (図 1) : Google カレンダーのようなウェブ上のカレンダーである。
- ノート機能 (図 2) : カレンダー上の各日には、タイトル・日付・タグ・内容を記録することができる。この機能をノート機能と呼び、各記述をノートと呼ぶ。ノートは、同日に複数の異なる予定を記入することができる。ノートのタイトルはカレンダーに表示される見出しとなるため、通常は「予定」を記述することを想定している。一日に複数のノートを記録することができる。
- b ポートフォリオとの連携機能 (図 3) : カレンダーに記録されたノートは、b ポートフォリオの「読書記録」と同様に扱われる。読書記録に対して「経験記録」と位置づけられる。

### 3.2 経験ノート機能の使用イメージ

経験ノート機能の使用イメージは次のようになる。

- ① b ポートフォリオのカレンダーに通常の手帳の予定を入れる。例えば、タイトルに「1400 S 先生との打ち合わせ」などと入力する。予定の段階ではこれだけでもよいが、打ち合わせの概要などを「内容」欄に記入しておくこともできるし、タグをつけることもできる。
- ② 予定を遂行したら、内容欄にその予定の結果についての振り返りの記録を記入する。打ち合わせの結果のメモでもよいし、気づいたことなどでもよい。内容についてのタグをつけることもできる。
- ③ b ポートフォリオのマイビリーフ機能で、経験ノート機能に記録された「経験記録」をリンクしながら、マイビリーフを作成する。その際、他の経験記録や読書記録を合わせてリンクすることもできる。

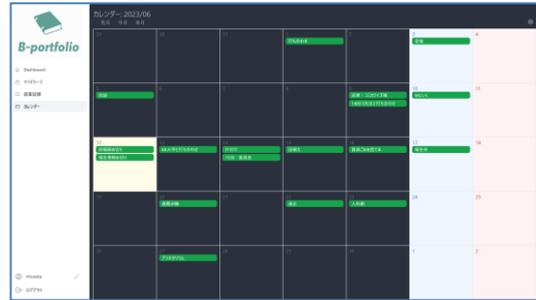


図1 カレンダー機能



図2 経験ノート

### 3.3 経験ノート機能の利点

ポートフォリオによる学習では多様な経験を振り返って学ぶことが推奨される<sup>(2)</sup>。しかし、多様な意見をそれぞれ記入することは負担である。一方でカレンダーに予定を記入することは多くの人が日常的に行うことである。しかし、過去の予定が省みられることはあまりない。本機能は過去の予定をそのままポートフォリオで活用する素材として「経験記録」として位置づけている。こうすることで経験の記録の負担を下げ、かつカレンダー機能に連動させることで日々の振り返りに活用する機会を増やしている。

## 4. システム構成

システム構成は次のとおりである。

- Ruby on Rails (バックエンド)
- React (フロントエンド)
- MongoDB (データベース)
- GraphQL

開発は株式会社アルベッジが行い、開発完了後は無料で公開する予定である。

## 5. 今後の展開

現在は、上述した機能はすべて実装されているが、ポートフォリオによる学習方法に関して知識・スキルがある人や、学習に関して勤がいい人でないといひこなせないかもしれない。より多くの人に活用してもらうためには、b ポートフォリオやカレンダーを用いた読書記録・体験記録の作成・振り返り・マイビリーフの作成・更新といった一連の流れを体験させられるようなチュートリアル機能などがあつたほうがよさそうに思われる。そのようなユーザーへのガイダンス機能についても今後、開発していく予定である。



図3 マイビリーフ作成画面

### 参考文献

- (1) 平岡齊士・小村道昭:読書経験をリソースとしたポートフォリオシステムの設計と開発 — b は book の b —, 教育システム情報学会誌, Vol.39, No.1, pp.112-113.(2022)
- (2) Kolb, D. A., & Fry, R. :Toward an applied theory of experiential learning. In C. Cooper (Ed.), Studies of group process, 33-57. New York: Wiley. (1975).
- (3) 松葉龍一・小村道昭(編著):学生力を高める e ポートフォリオ —成功への再始動—, 東京電機大学出版局 (2018)

本研究は JSPS 科研費 26350276 と 17K01083 の助成を受けたものです。